平成13年度ヘテロカプサ赤潮等緊急対策事業（抄録）

棚田　教生・天真 正勝・宮田　匠

本調査は近年その分布を拡大しているヘテロカプササーキュラリスカーマ（*Heterocapsa circularisquama*）の東部瀬戸内海における初期発生域、予察技術を開発するため、平成13年6月25日～10月22日の間、香川県、兵庫県、水産庁及び民間機関との共同でプランクトン出現調査、海洋環境調査等を実施したものである。

平成13年度における徳島県担当水域（播磨灘南東部（内の海を含む。））での本種の出現状況について取りまとめたので、その概要を報告する。なお、詳細については「平成13年度赤潮予察技術開発試験 ヘテロカプサ赤潮等緊急対策事業 成果図集」を参照されたい。

○*Heterocapsa circularisquama*の出現状況

内の海では平成10年に本種が3,300cells/mlに達する赤潮を形成したが、平成11年は最高5.0cells/ml、平成12年は未検出であった。本年は8月28日の初検出以降、継続的に検出され、最高細胞密度は10月15日の405cells／mlであった。しかし翌週には0.1cells／ml未満となり、そのまま終息した。なお、本種による漁業被害は報告されていない。

また、播磨灘海域においては前年に引き続き本種の発生はみられなかった。

本年は赤潮こそ形成しなかったものの内の海で３年ぶりに高密度で出現しており、引き続き本種出現状況の監視及び生活史の解明が必要であると考えられる。